

愛教大の「いま」にであえる情報誌



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

AUE Letter
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

あゐる

VOL. 6

2022
Autumn

子どもの声が
聞こえるキャンパス
地域から頼られる大学

特集
未来共創プラン
子どもキャンパスプロジェクト



未来共創プラン 『子どもキャンパスプロジェクト』

子どもと共に、学生と共に、社会と共に、附属学校園と共に、未来の教育を創ります。

大学およびその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供することで、「子どもの声が聞こえるキャンパス」「地域から頼られる大学」を目指します。

- ① 「学び」と「遊び」が一体化したエリアへの転換
- ② 学生・教職員・地域の協働で多様な興味関心を広げる機会を増加
- ③ 遠足や校外学習等の新たな目的地としての提案
- ④ 大学に自生している竹を活用したアクティビティーの創出と関連した体験的な教科学習
- ⑤ 大学のリソースの再発見と有効活用、課題解決の推進

活動レポート

I 馬とのふれあい体験会

馬術部が『馬とのふれあい体験会～愛教の馬に会いに行こう!～』を開催し16組の親子が「乗馬グループ」と「プラ板作りグループ」に分かれそれぞれの体験を楽しみました。

これまで不定期に開催してきたこのイベントは、昨年度成立したクラウドファンディングによる全国からの寄付（総額115万円、寄付者81人）を新たな財源として内容を充実させることができました。

今回は、定員20人のところ80人を超える申し込みがあり、今後もイベントを継続的に行っていく予定です。



II 「竹チップ製作」&「カブトムシ生育」

附属高等学校の生徒が隣接する竹林の竹を伐採して竹チップにするとともに、自然観察実習園までつなげる遊歩道を整備しています。

昨年度成立したクラウドファンディング「竹チップで子どもたちにカブトムシに触れる体験を」の一環としてキャンパス内で体験イベント「カブトムシのつかまえかたおしえます!」を開催し、13人の親子とボランティア学生7人の合計20人が参加しました。また、刈谷市内の10園にキャンパス内で採集したカブトムシの幼虫をプランターに入れて贈りました。



III 「子ども会新入生歓迎会」を開催

大学近隣地区の子ども会新入生歓迎会を本学で開催し、子ども104人と教職実践演習や地域貢献活動により参加した学生33人の合計137人が参加しました。

子どもたちは1～3年生、4～6年生の2グループに分かれて、第一体育館と第二体育館でさまざまなスポーツを学生と一緒に体験しました。1～3年生はドッジボール、ソフトラクロス、シュートゲーム、4～6年生はドッジボール、ミニサッカー、シュートゲームを各30分間の合計90分実施しました。みんなでたくさん体を動かし、楽しい時間を過ごしました。



IV 「サッカーフェス」で大会&スクール

愛知教育大学のグラウンドを使用し、『サッカーフェス』を開催しました。

サッカー教室等の活動を行っているサッカークラブ豊田AFCの協力のもと、サッカー大会とサッカースクールの2部構成で実施しました。

サッカー大会では、地域のサッカー教室に通う小学校高学年の3チーム50人が参加し、熱戦を繰り広げました。

サッカースクールでは、未就学児童（2才から5才）の20人と小学校低学年の26人が参加し、ボールを使った運動から、シュート練習、ミニゲームを実施しました。



V 附属学校園の子どもたちが、遠足や校外学習でキャンパスへ！

「子どもキャンパスプロジェクト」の取り組みとして附属学校園の協力を得て、遠足や校外学習の目的地を愛知教育大学に設定。

当日は、学生や教職員から募集した「子どもたちが学び遊ぶことのできるプログラム」「学内資源としての竹を活用したプログラム」を学生や教職員が主体となって実践し、子どもたちのたくさんの笑顔がキャンパスに溢れました。



優しく馬に触れてみよう！



図書館で大学の歴史を学ぶ



「この実験やりたい子は？」「はいっ！」



「おっきなジャガイモが取れた！」

2022年度附属学校園の訪問

学校名	学年	目的	内容
附属幼稚園	5歳児	体験	じゃがいも掘り
附属名古屋小学校	2年生	遠足	馬との触れ合い、わくわく科学実験、図書館見学（読み聞かせ）
附属岡崎小学校	3年生・4年生	遠足	馬との触れ合い、マジックショー観賞、図書館見学、縄跳び実技、リズムダンス、手軽な運動遊び、大学探検、新聞を使ったワークショップ
附属岡崎小学校	4年生	交流授業	子どもたちが日本の紙芝居を英語で披露、グループディスカッション
附属特別支援学校	高等部	遠足	リズムダンス、ダブルリング飛行機造り



大学の中を探検してみよう！



野田敬敬学長と楽しく交流



ダブルリング飛行機を投げてみよう！



お兄さんにインタビューしよう



野田敬敬学長が見守る中、緊張の自己紹介



学生と一緒に手軽な運動遊び



「とっても大きな本だね！」



長縄に入るタイミングはいつかな？



たくさん練習した英語で紙芝居を披露



リズムに乗って楽しく踊ろう！

プロジェクトを運営する「未来共創推進室」スタッフからのメッセージ

この「子どもキャンパスプロジェクト」の活動が、子どもたちの実体験を通じた好奇心の育成の一助や、その子どもたちの姿を見た学生にとっての教職を目指す原動力となれば幸いです。子どもたちが安心して遊び、学ぶことができるよう、安全に配慮しながら今後も様々なイベントを提供して参ります。みなさまぜひご参加ください！

詳しい活動内容はこちらから！
HP「子どもキャンパスプロジェクト」▶



理事紹介

理事(研究・人事担当)・副学長
岩山 勉 理事

(略歴)
2020-2022年度 理事(研究・人事担当)・副学長
2020-2021年度 教員養成開発連携センター長
2015-2019年度 教授・副学長
2013-2022年度 科学・ものづくり教育推進センター長

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を「科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞」として顕彰しており、特に「理解増進部門」については、青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心および理解の増進等に寄与し、または地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与した活動を行ったと認められた個人またはグループに贈られます。

受賞対象となった活動は、「理科離れ克服を目指した科学ものづくり教育の推進と普及啓発」で、科学技術に興味のある地域の児童・生徒の育成、実践的指導力のある教員の養成、現職教員の指導力育成・向上と支援、学生の自主的・主体的な科学技術普及活動の支援等を目的とした、科学・ものづくり教育推進センターが中心となった、組織的・継続的な諸活動が成果として認められました。岩山理事は、当初からこの活動に携わり、また科学・ものづくり教育推進センター長としてこの活動を推進してきました。

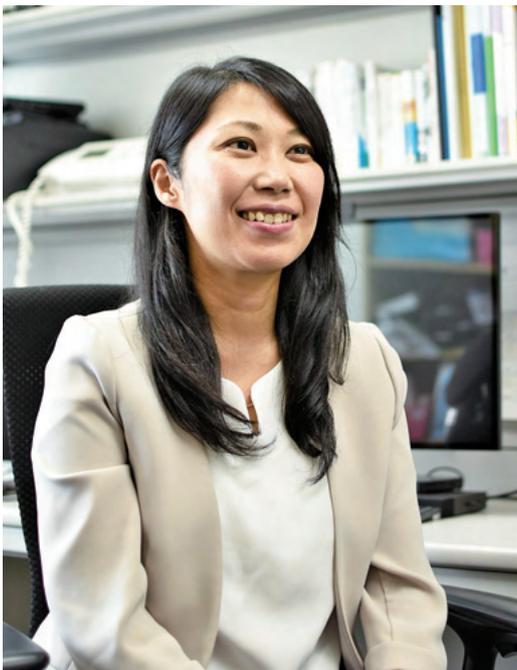
表彰式は4月20日(水)にオンライン配信で行われ、後日、野田学長からお祝いの言葉とともに、受賞にあたっての賞状および副賞の伝達がありました。岩山理事は、これまでの活動に積極的に協力してくれた卒業生を含めた大勢の本学学生、教職員の方々を代表しての受賞であると、謝辞を述べました。

令和4年度科学技術分野の
文部科学大臣表彰科学技術賞を
受賞!



学内授与式後の記念撮影

私の好きな言葉は
「継続は退化の始まり」です。
新しい問題を常に発見し学び続け、
研究に取り組んでいきたいです。



研究室訪問

保健体育講座
成瀬 麻美 准教授
体育科教育、ダンス

研究のテーマ、面白さを教えてください。

体育科教育・ダンスを専門とし、学校現場における表現・創作ダンスを中心とした舞踊教育の研究に取り組んでいます。表現・創作ダンスにおいて「よい動き」は1つではなく多様に存在するため、よい動きを明確化しそれを引き出すための指導法を現場の先生方と連携しながら研究を進めています。子どもたちが授業を通して、学びを得て動きが変化していく過程は何よりも面白い瞬間です。

子どもキャンパスプロジェクトと成瀬研究室とのかかわり、子どもとの触れ合いの中での学生の学びについて教えてください。

子どもキャンパスプロジェクトの一環として、附属学校の子どもたちが大学に訪れた際に、研究室の学生を中心とした大学生と一緒にダンスの授業を行いました。決まった振り付けを「教える」授業ではなく、子どもたちから動きを「引き出す」授業にすることで、子どもたちと大学生のかかわりの中から相互に学び合う姿を見ることができました。大学生は子どもたちから現れた予想もしない躍動感のある動きに衝撃を受け、普段よりも格段に動きが高まっていました。さらに、学生は多様な子どもたちと接する中で「こういう場合はどう接したらよいか」という疑問や課題が生まれ、授業中に試行錯誤しながら接することで教職に対する意識が高まり、やりがいを感じられる機会にもなりました。

「ショパン国際ピアノコンクールinASIA」で銅賞を受賞

■ 初等教育教員養成課程
音楽選修4年 **鎌野 優佑さん**

鎌野優佑さんは「ショパン国際ピアノコンクールin ASIA2021」全国大会大学生部門で銀賞を獲得し、その後のアジア大会のホール審査において銅賞を受賞しました。

本コンクールは、優美かつ華麗なショパンの音楽を通じて国際レベルの優れた演奏家を発掘・育成することを目的としています。

鎌野さんに音楽に対する思いを伺いました。

「SNSの普及に伴い、自分の音楽を発信することや、国内外の人とつながることが簡単にできるようになりました。話す言語が違って音楽を通して気持ちを分かち合い、感動することができるのは音楽ならではの特権だと感じています。

音楽は言語や国籍関係なくコミュニケーションをとることができる唯一のツールだと思います」

そして教員を目指す鎌野さんが、音楽を通じて子どもたちに伝えたいことは?

「日々の生活で上手く言葉にできない場面はありませんか? “音楽は自分を表現する手段の一つ”です。クラシックにも明るい曲、暗い曲があります。邦楽であればいろんな歌詞や歌手がいますね。いろんな音楽に触れてお気に入りの音楽を探してみてください。言葉にできずモヤモヤするときも音楽はそっとあなたに寄り添ってくれるはずですよ」

音楽は自由です。そんな音楽に触れる私たちもまた自由です。音楽の良さを多くの人々に知ってもらえるよう活動していきたいです。



「第69回全国国公立大学選手権水泳競技大会」全員出場

■ 水泳部



部員は4年生11人、3年生7人、2年生6人、1年生2人で、今年のチーム目標であった「全国国公立大会全員出場」を達成することができ、金沢のプールでチーム一丸となって戦い抜くことができました。そこでは、多くの選手が自己ベストや大学ベストを更新し、決勝に進出して入賞する選手も多くいました。

自己ベストの更新に向けての日々のトレーニングはもちろんですが、教員を目指す学生として週に一度公営プールで子どもたちに泳ぎを教える活動

を通して、子どもとの上手なかかわり方も学んでいます。

これからの時期は来年の夏のシーズンに向けて、追い込み練習に取り組んでいくつもりです。水泳部は、マネージャーを大募集中です! 水泳に興味がない人でも、ぜひ一度見学に来てください。



「SAGA(サーガ)」AUEパートナーシップ団体に認定

■ SAGA(サーガ)

「AUEパートナーシップ団体」(以下PS団体)とは、本学学生団体のうちで主体的・積極的に学内外で活動を行い、本学の教育、研究および社会貢献活動に貢献していると認定した団体のことです。本学に対する貢献度が高く、認定資格を満たした団体にはPS団体として認定し、認定証を授与します。このほどSDGs普及活動団体「SAGA(サーガ)」がPS団体として認定を受けました。以下、認定を受けてのメンバーの感想です。

「持続可能な社会の担い手である子どもたちに、SDGsをもっと知ってもらおうと思いついてきた活動が、こうしてPS団体という形で認めていただけて大変うれしく思っています。

私たちSAGAは、子どもにSDGsを普及、啓発するための教材開発を行い、それらを用いて小学校での出前授業やイベント出展を行っています。現在は約20人で活動しており、生き物に関する教材を中心に扱っています。今回のPS団体認定を機に、今後はいろいろな専攻の学生と共に違う視点の教材も開発していきたいです。子どもに教えることを通して、自分たちも楽しくSDGsを学んでいきたいです。

興味あるみなさん、ぜひ、一緒に活動しましょう」



#

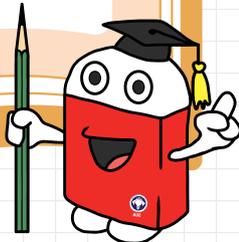
愛教大 ニュース

NEWS

2022年3月～7月



愛教ちゃん



エディ

新種・ムカシツチガエルを発見!

本学と、京都大学、北九州市立自然史・歴史博物館、横浜市繁殖センター、ソウル国立大学および広島大学の共同チームは、関東から東北太平洋側に生息するツチガエルがツチガエル誕生以前から我が国に生息する、日本古来の土着系統であることが分かり、「ムカシツチガエル」と命名しました。

本研究成果は、動物分類学の学術誌「Zootaxa」のオンライン版に掲載されました。



ムカシツチガエル

本研究に参加した理科教育講座の島田知彦准教授は自然史学が専門。特にカエルに関する研究を行っており、これまで東南アジアの各地で新種のカエルを発見するなどグローバルに活躍しています。ほかにも、新種の「サンショウウオ」の発見など両生類、爬虫類全般の研究に携わっています。

トヨタ車体男子ハンドボール部「BRAVE KINGS」と保健体育専修の学生が合同授業を実施

5月に3回に渡り、保健体育専修の1年生とトヨタ車体株式会社のハンドボール部「BRAVE KINGS (ブレイヴキングス)」が合同で授業を行いました。

「BRAVE KINGS」は日本ハンドボールリーグ2021-2022シーズンにおいて2位、日本代表選手が数多く所属する日本のトップチームです。以前より本学ハンドボール部とのかかわりがあり、今回の授業が実現しました。



選手と学生が協働してチーム作りや簡易的なシュートゲーム大会を体験したり、「越境的な学び」についての講義を受講したりして、選手と学生のそれぞれが学びを得た機会となりました。

本学初! 大学PR看板を設置

本学の正門の位置を伝える目印になること、そして正門までの市道を「大学の目抜き通り」として活性化していくことを目指して、正門手前の場所に大学PR看板(横5.5m×高さ1.8m)を設置しました。こうした看板の設置は、国立大学では珍しく、本学でも初めての設置です。

看板には、「未来共創プラン」の言葉を引用して「未来の教育を共に創る」をキャッチコピーに、附属高校の教員と生徒の写真イメージ画像に採用しました。

本学へお越しの際は、ぜひ大学PR看板にもご注目ください。



株式会社オカムラとのネーミングライツ事業契約を締結

株式会社オカムラとネーミングライツ事業契約を締結し、教育未来館の玄関ホールの一画「オンライン就職面接や就職説明会等に活用されているスペース」を、「未来とつながる TELECUBE by okamura」と命名しました。

本学は、令和3年7月にネーミングライツ事業制度を導入し、契約締結は本件で4件目です。

株式会社オカムラから提供された「見だしなみに活用できる全身鏡や什器」は、学生や教職員から好評。オンライン就職面接や就職説明会、Web会議への参加などでの活用が期待されます。



シーホース三河株式会社との相互連携協定を締結

シーホース三河株式会社との相互連携に関する協定の締結式を行いました。シーホース三河は、B.LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム「シーホース三河」を運営しており、本学がプロスポーツチームと協定を締結するのはこれが初めてです。2021年にシーホース三河のU18チームが活動を開始するにあたって、本学附属高校の体育館を練習施設として貸し出したことから連携が始まり、今回の連携協定締結に至りました。

今後は連携交流を深め、大学の授業の一環である企業体験活動においても連携することを計画しています。



親子プログラミング教室 in T-FACEを開催

本学と丸善雄松堂株式会社、豊田まちづくり株式会社は、T-FACE(豊田市)において「親子プログラミング教室」を開催しました。これは、「『子どもキャンパスプロジェクト』の出前授業の開催」、「学習の基盤となる『情報活用能力』の向上」を目指したもので、30組の親子が参加しました。

参加者は、プログラミング学習ロボットを使った作図方法の説明を受け、どのようにプログラムを組んだらロボットが動くのか、オリジナルの図ができるのか親子で試行錯誤を重ねながら図柄を完成させました。完成したオリジナルの図柄はその場で大きなスクリーンに映し出され、子どもたちからは、難しかった点や工夫した点、楽しかったところなどの素直な感想が発表されました。

なお、当日の運営においては、プログラミング学習ロボット販売元のエルモカンパニーの社員と本学の学生ICT支援員によって、操作説明などのサポートが行われました。



星博幸教授が2022年度「日本地質学会論文賞」を受賞

理科教育講座 星博幸教授が2022年度「日本地質学会論文賞」を受賞しました。

日本地質学会は1893年(明治6年)創立の日本の地学分野を代表する学会です。

星教授は2020年度に続いて2度目の受賞となり、今回は星教授を含め4人の著者が共同執筆した論文が受賞対象になりました。

受賞を受けて星教授は「今後も研究に邁進し、その成果を本学の学生教育およびプレゼンス向上につなげていきたい」と抱負を述べています。



「地域連携フォーラム2022」を開催

「地域連携フォーラム2022『地域と考える未来共創—SDGs実現のために—』」を開催しました。今回のテーマは「持続可能な社会を構築するための協働のあり方について」。刈谷市、刈谷市内の企業、教育機関によるそれぞれのSDGs推進のための活動発表とパネルディスカッションを行いました。当日は、教育関係者、自治体職員、会社員など各方面の方々約70人が参加しました。



実用数学検技能検定「数検」グランプリで文部科学大臣賞を受賞

数検グランプリ文部科学大臣賞とは当該年度の検定において、奨励賞を受賞した小学校、中学校、高等学校、高等教育(大学、短大、高専)、一般団体、公教育団体の6部門の中から教科の顕彰評価会議によって認められた金賞受賞候補団体の中からさらに卓越して優秀な団体に贈られるものです。

本学は、2021年度に受検した大学生、高校生の成績が良かったことに加えて2008年、2015年にも金賞を受賞しており、長期的な取り組みが評価され、今回の受賞に至りました。



企業とコラボ! 電気の科学館で実験ショー

本学は、教員としての実践力を育成する目的で、授業の一環として「企業体験活動」を実施しており、本取り組みで、中部電力パワーグリッド株式会社および電気の科学館の協力のもと12人の学生が実際のお客さんの前で空気に関する実験ショーを行いました。

3回のショーはいずれも満員で、空気ので発泡スチロール製の球を浮かせたり、大気圧の力で食品ラップを破裂させたりすると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



「愛知教育大学未来基金」「愛知教育大学創基150周年記念事業」 へのご寄附のお願い



【創基150周年記念事業ロゴマーク】

ロゴのコンセプトは「伝統と共創」です。本学だけでなく附属学校や地域の教育の未来が華やかに開くよう、150の「0(ゼロ)」は花の輪をイメージし、本学の創基となる1873年から共に伝統を紡いできた師範学校・附属学校園・学芸大学の校章を円環状に並べました。校章は頂点から右回りに師範学校と学芸大学、左回りに附属学校園が古いものから順に並んでいます。同一校で校章や名称に変更があった場合にはひとまとめにして各創立年に合わせて並べました。また、「0(ゼロ)」の中心には、本学のシンボルマークの中心にもある「カキツバタ」を配置しました。

愛知教育大学創基150周年記念事業へのご寄附について

愛知教育大学は、令和5年(2023年)に創基150年を迎えるに当たり、令和5年(2023年)秋に愛知教育大学創基150周年記念事業を行います。

そのため、愛知教育大学未来基金の寄附メニューとして「愛知教育大学創基150周年記念事業への寄附」を設け、ご寄附は愛知教育大学創基150周年記念事業に活用して参ります。

つきましては、皆様方におかれましては、ぜひともこの趣旨にご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。

概要

- **名 称**：愛知教育大学創基150周年記念事業への寄附
- **募集期間**：令和4年(2022年)9月1日から令和6年(2024年)3月31日まで
- **募集金額**：一口1,000円(複数口のご寄附を歓迎します。)
- **実施事業**：記念式典の開催、記念演奏会の開催、記念植樹の実施、創基150周年記念パンフレットの作成、記念展示会の開催ならびに修学や国際交流の推進に関する支援事業および教育研究環境に関する整備

詳しくは、未来基金のホームページをご覧ください。



愛知教育大学HP
「未来基金」

愛知教育大学未来基金へのご寄附について

引き続き「教育研究基金」「AUE修学支援基金」へのご寄附も受け付けております。

ご寄附の際はご希望の基金・事業をご選択ください。

寄附者の方へのお礼について

未来基金(愛知教育大学創基150周年記念事業への寄附を含む)へご寄附いただいた方には、未来基金ホームページ等の芳名録への掲載のほかに、金額に応じてさまざまなお礼をご用意しております。詳しくはホームページをご覧ください。

累計で10万円以上ご寄附いただいた方には、
本学公式マスコットキャラクターの
【愛教ちゃん】と【エディ】のぬいぐるみ
2体1セットをプレゼント!



愛知教育大学HP
「寄附者の方へのお礼について」



愛知教育大学広報誌「あえるAUE Letter」vol.6 (2022 Autumn) 2022年9月発行



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／愛知教育大学 総務・企画部 広報課 広報・渉外係
E-mail/kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
https://www.aichi-edu.ac.jp/

